

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社 高梨ウェルビーイング		
事業所名	あったかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪595		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12 みゆきビルbizcube7F
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした時間の中でいきいきと暮らしていただけるよう見守っていきたく思っています。家族・知人・地域の人達との交流がさかんでご自分の気持ちの発動をくらしの中で決定・実現できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角にあり、経営者の住まいの敷地の中にある。周辺には菅原神社、香取神社或いは上花輪歴史館など散歩するには良い環境にある。近隣からも好意的に迎えられており、スタッフの退職はなく定着しているなど、経営者や管理者はスタッフの意見を良く聴取し、安定的な事業が行われている。このことは、安定的な利用者支援、利用者を大事に支援していることの裏付けでもあり、また、お会いした利用者の顔色、笑顔、或いは昼食の際の食欲からも窺えることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた介護をめざし、スタッフ1人1人が現場で仕事をしている。	「利用者の安心と尊厳のある生活を可能な限り、自立して営むことができるように支援する」ことを共通の理念とし、スタッフは、常に忘れずに日々実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が住民として地域と交流しており、近隣との関係も続いている。	市の福祉課や近隣住民とも話し合い、これらの方を含め楽しんでもらうための工夫をもってイベント等の開催に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が個人的ではあるが地域の福祉行政に参加し、その中で認知症の人の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーの方には事業所の取り組み等を理解して頂いているが、今年は回数が少なかったため、もう少し力を入れていきたい。	市の担当者、民生委員、町内会役員、利用者ご家族により、運営推進会議が開かれ状況報告やサービス向上の為の施策が検討されている。しかし、今評価期間中においては、例年に比し、開催頻度が少なかった。	さらに一層の開催頻度を他年と同等もしくはそれ以上(二月に1回以上)に開催してサービス向上に努力いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市も取り組みをよく理解して下さっていると思う。今後も市の関係者、相談員さん達とも協力していきたい。	市の担当者や市の開催する「介護相談委員会」に、又は市の部会等のセミナーに参加し、待機人員の把握などの情報を入手し、積極的に市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないと思うが危険な状態にある場合は、家族に理解して頂いている。(イスベルトのみ)	正しい理解があり、言葉による拘束すらしなないように注意深く実践している。玄関は施錠しておらず、午後10時までは開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありえないと思うがスタッフ全員が注意する様にしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば入所時に説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、退所時や認知症の進行状態などを理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時や、必要な時、そのつど要望を聞き、納得のいく対応を行っている。	利用者の家族には、週/1度程度の割合で、利用者の状況を伝えている。又要望は家族アンケート等を利用したり、家族来訪時にできる限りの要望を聴取し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションをとっている。カンファレンスや連絡帳にて意見ととりあい、働きやすい職場にしている。	連絡帳はあくまで業務連絡の域であるが、日頃のコミュニケーションにより意見としての提案やカンファレンスにおいての意見、提案を実際に取り上げ、検討し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての職員が不満なく就労してもらえる様、働きやすい、環境や条件をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修をうけつつ、1人1人がレベルアップして行く様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国ネットワークの交流、市の事業者会議などでお互いにサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の昼食への参加、家庭訪問、おためし入居と安心して入居して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定後、ご家族の不安等を解消し、よい関係づくりになる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、家族、ケアマネさん等のお話を伺い、入居して頂く様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員との関係は親・子・友人の様な形をとり、毎日を過ごして行きたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為に家族と職員は共働の形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのスーパーやお店に出向き、いつもの町に住んでいる状態を保持している。	通い慣れたスーパーや日々の食材の買い物又は美容院(理容院)の利用、喫茶店、ファーストフード店など人や場所とのふれあいを大事に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆったりと仲よく生活できる様気を配っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時も今まで通り支援し契約終了後もしばらくの間は連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや訴えは連絡ノートや日誌で把握し、家族と連携をとり、生活して頂いている。	理念を実践をするためには、利用者の思いや訴えを把握することは必定と考え、スタッフは、本人本位の暮らし方についての情報聴取の根源を日々の日誌や連絡帳をよりどころにして取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話や、今まで過ごしてきた環境から生活歴を把握し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のその日の心理状態、体調の変化に気付き、職員全員で協力しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員で相談し合い、意見を出し合って計画を立てている。	ケアプランの作成は、利用者本人、家族の要望を聴取し、ケアカンファレンスにおいてスタッフの意見も取り入れたうえで、かつ一人ひとりの状況に応じて、短期、長期の計画が設定されている。	設定された計画を達成する為に、一人ひとりの日々のケア記録が記されたそのケアのあり方があるかどうかの見極め評価をし、日々のケアの修正判断する過程が必要と史料する
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の健康状態、心理状態を細かく記録し見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の24時間の生活を支える為、取り組んでいる。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・民生員・地区社協・ボランティアの会などとそのつど協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医やホームドクターとの関係の中で安心して医療が受けられる様に支援している。	本人に必要な専門的なかかりつけ医があるならば当然にそのかかりつけ医の医療を受けられるが、その際の付き添いが家族であれば、申し送り事項を伝え、受診後情報をフィードバックしてもらうなど連携を図っている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは医師の指示や服薬などの細かい注意点を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スタッフも本人や御家族に協力し病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は入居時に方針を説明しておき、その時がきたら再度御家族と相談し対応している。	終末期まで迎えた利用者はこれまでないが、あれば、そのときにご家族や関連機関と相談のうえ、対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや感染症、急変時等の講習をうけスタッフが実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の訓練、毎月の自主訓練を行っている。近隣のお年寄りを含めた避難訓練をまだ実行できていない。	特に夜間は、経営者家族が同敷地に居住しているので、夜間スタッフ他多数の救援、救助を期待でき、自主訓練も怠りがなく、取り組まれている。	問題として近隣に独居老人も多く、そのお年寄りも含めた避難計画を近隣の方々と取り組むという壮大な計画もあり、実現に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格や生活を尊重し、プライドを傷つけぬよう、ことばかけ接し方に注意している。	職員は、利用者と決して「友達付き合い」の様な関係になってはならないと肝に銘じ、当ホームの介護方針である「敬う心と敬う言葉」をモットーに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に自己実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムをくずさぬ様に毎日を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	みだしなみはきちんとしているがもっと自分らしいおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定、買い物、調理、後片付け、ひとりひとりにあわせて共働している。	後片付けはもちろん、調理のできる利用者にはお手伝いをして貰う。当ホームでは過去の食事メニューを記録しており、それを見ながらそのときの献立メニューを利用者の要望を反映しつつ考えるなどの工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にカロリー、食事量等を調節し、水分量もチェックし便秘等にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア・義歯のチェックをかかさず行っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人排泄パターンをチェックしトイレ誘導を促している。	現在おむつ使用者は皆無で、リハビリパンツ又は布パンツである。重点的にトイレ誘導を促しており、ややもすると業務の3分の1程度はこの支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、水分調整、体操、散歩等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っているがその日の体調により決めている。	調査日は冬場であり、冬場はすくなくとも1日置きには入浴することを勧めている。夕食までには入浴を終えるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝も行っている。(全員ではない)安眠できる様、運動・お手伝い等に参加してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援と変化による医師への報告、量の調整等細かく支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さな事でもできる事をお願いし、役割を決めている。楽しみや気分転換にもなる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日行っている。本人の希望により買い物、ドライブ等にも出かけている。	天候の良い日は、午前中の散歩を日課とし、スーパーやショッピングモールへの買い物、遊園又は外食など或いは地域の作品展の見学など日常的に外出ができるような支援をしている。	

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通帳を管理している人やお金を所持している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい人はその都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風が入ってくる空間作りをしている。季節を感じられる様ウッドデッキでの過ごし方をもう少し工夫していきたい。	リビング兼食堂には、食事の際3つのテーブルが配置され利用者2~3人にスタッフ1人が一緒に食事をしており、非常に家族的である。また、共用部分、通路は安全が配慮され、余計な物や危険となるものは置かれていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	最近皆でホールに居る事が多い。自室に入るのは昼寝の時のみ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物、必需品にかこまれた過ごし方をしている。(何も置けない人もいるが)	居室には使い慣れた物や愛用品や調度品を持ち込むことは可能であり、利用者や家族と調整、相談の上決定され、居心地良く過ごせる居室として配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できないこと」を支援し「できること」をみつけだし自立した生活を送って頂く。		